



←3週間ぶりにネギ畑が整理され、やっと見られるようになった。下の写真は3週間まえの台風で荒れたネギ畑。



→立冬過ぎて冬の気配。江戸川の水も透明度を増してきた。

ネギ畑がようやくやくもとに戻りつつある。先月の台風二十一号で倒れたネギが立ち上がってきた。

出荷まであとひと月あまり。矢切ネギは関西地方のネギのように青い葉の部分より、土に埋まった白い部分を食べる種類なので多少は助かっているがそれでも真っ直ぐに立っていたほうが優良品として取引されるだろう。

そんなネギ畑を横目に眺めながら矢切の渡しから家に戻ってすぐ、入れ違いにけたたましいサイレンを響かせて救急車が渡しの方向に走って行った。

そのときは下の集落で何かあったみたいだな、ぐらいですんだが、翌日矢切の渡しに下りて行くと舟頭さんが、「きのう、あんたたちが帰ってすぐに大変だったんだよ」

舟頭さんが興奮ぎみに語る。

「水死体があがってさあ。一一〇番したんだ。そうしたら、一一〇番で東京の警視庁につながるだよな、このへんからだ。それで松戸にまわしてもらって報告したんだ。そのときサイレンなんか鳴らさずにそっと来てくれっ

今週のクマ

→台風も去って矢切りの渡しも営業を開始した。ほっとした顔をしているクマ。



→今年も矢切畑を流れる逆川に渡り鳥のヒドリガモがやって来た。先遣隊だろうか？1羽で泳いでいた。



ていったんだけど。パトカーや救急車が何台も来て大変だった」

通称、フロッグマンと呼ばれるウエックトスーツを着た警官、ブルーシートをさげた警官などが十数人もやって来て、乗り場に通じる道に黄色いテープを張って立ち入り禁止にした。

その日、帰るまえに舟をとめおく場所の修理をしているときに、すぐそばに茶色い大きな物が浮かんでいるのを私は見ている。そのときは大きなゴミだな、ぐらいにしか思わなかったが、舟頭さんの話を聞いて、やっぱりあれが水死体だったんだと気がついた。

その日、つまり八日の産経新聞の朝刊には『江戸川で身元不明の男性遺体』という記事が載っていた。それによると男は身長約一七五センチ、茶色のTシャツにグレーのカーディガン、黒のスエットズボン姿。靴ははいていなくて、財布には約一万九千円が入っていたという。

外傷はなく、警察では身元の確認や詳しい死因を調べているという。

よくあるんだ、毎年とっていいくらいあるよと舟頭さんはいった。私は初めて水死体を見た。妙な一週間だった。